

キャンドルは日々を
穏やかに過ごすためのアイテム

明かりを生み出すキャンドル作家

愛甲 美幸さん(七日町)

あいこう みゆき

昭和36年1月3日生まれ。荒尾市出身。有明工業高等専門学校を3年で修了し、熊本大学医療技術短期大学部(現・熊本大学医学部保健学科)に進学。看護師として熊本大学病院に7年間勤務し、結婚を機に人吉へ。平成29年にベッキーキャンドル公認インストラクター、アートキャンドル協会準会員、花キャンドル・花灯ディプロマ取得。「ステラキャンドル」主宰。「K.S企画」副代表。



▲昨年7月に開催した「癒やしのキャンドルナイト」の様子



▲愛甲さんの作品。ろうそくに火をともし形が変化していく様子を楽しむのも魅力



人吉で輝いている人

「自然災害や感染症で大変な時代だからこそ、キャンドルの揺らぎを見て、心を穏やかに、そして元気になってほしい」。令和2年7月豪雨災害で自身も被災したが、キャンドル作家として自分にできることを考えた。球磨郡錦町でギャラリー小川を運営する小川和子さんと「K.S企画」を立ち上げ、昨年7月に復興イベント「癒やしのキャンドルナイト」を街蔵(紺屋町)で開催。「穏やかな気持ちになった」「良い時間が過ごせた」など多くの反響をもらった。

キャンドル作家となったのは7年前。産後に患った大病を乗り越え、子どもたちが巣立った後に自分探しをする中で、以前から興味があったキャンドル作りに挑戦。ノウハウは関東のスクールに通いながら習得した。キャンドル作りの工程はシンプルで、ろうを溶かして固めれば完成。「基本的に2〜3時間内には完成した姿を見られるのでせっかちな性格にとっても合っている」と話す。小さな子どもでも簡単に作れることから、今年のキャンドルナイトは参加型として、キャンドル作りを企画している。

「日々を大切に、穏やかに過ごすためのアイテムの一つとして、キャンドルを生活に取り入れて楽しんでみてほしい」。キャンドル作りを続けながら、暮らしを豊かにするためのヒントを発信していく。

今月のPICK UP NEWS!



小さな店員さん、接客や会計に奮闘

郡市の小学生を対象に、働く楽しさや喜びを体験してもらおうと魅力研究所(八代市)が企画した人吉ちびっこ商店街が4月29日・30日、5月14日・15日に開催されました。

人吉復興コンテナマルシェの一角に設置された駄菓子屋、ぶよぶよボールすくい屋、母の日のプレゼント作りができる店の店員となった児童は、お客さんの呼び込みや接客、会計などを体験。「いらっしやいませ! 何にしますか?」と積極的に接客に取り組んでいた4年生の川内李華さんは「お店屋さんの大変さや、お客さんが来てくれる喜びを知りました。とても楽しかったです」と話しました。働いた後は給料としてももらった700円(700円)で買い物を楽しんでいました。



お薦めの駄菓子を積極的に売り込む川内さん(上) /会場内のみで使えるイベント独自の通貨「ちびっこ商店通貨」(左下) / 「いらっしやいませ〜」。少し照れくさそうにお客さん呼び込むちびっこ店員(右下)



CONTENTS

広報ひとよし
NO.1154

2022 JUN

6

- 03 お人よし
- 04 出水期前特集 「防災力を高めよう」
- 10 確認しましょう! あなたの町の避難所
- 11 令和2年7月豪雨関連イベント
- 12 話題をおって
- 13 町内会長・町内会長連合会役員を紹介しします
- 15 情報ひろば
- 23 ひとよしのお仕事file
Let's フレイル予防
- 25 地域防災官の命を守る話
ふるひと どぎゃんね
- 26 はい、こちら消費生活センターです
保健センター子育て通信
- 27 教えて! マイナちゃん
市長日記
- 28 わが家の愛ドル / ようこそとしょかんへ!
- 29 みなさんからののおたより / hitoyoshigram
編集後記
- 30 ひとよしの情報発信・各種相談ガイド
- 31 休日在宅医・当番薬局・行事カレンダー
- 32 人吉市役所新市庁舎見学ツアー

※掲載している人物の写真は撮影時のみマスクを外している場合があります。

今月の表紙



人吉復興コンテナマルシェの一角で開催された人吉ちびっこ商店街に参加した児童たち。お客さんの呼び込みや接客などを体験し、働くことの大変さと楽しさを学びました。